

## (5) 全学共通科目

### 1) 日本語

- 日本語は、外国人留学生および帰国子女に限り履修することができます。
- 日本語の修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができます。

科目 区分	授業科目	単 位 数	週時間数				備 考
			一 年 次	二 年 次	三 年 次	四 年 次	
選択 科目	日本語（一）	2	F2				①履修することができる者は、外国人留学生および帰国子女に限る。
	日本語（二）	2	F2				②修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができる。

### 2) 英語による専門教育プログラム科目

#### ① プログラム名

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

#### ② 目的

本学には、多数の留学生および海外姉妹校からの交換留学生を受け入れており、本学の高度な専門教育を効率的に学習させるためには授業が望ましいと考えられます。さらに、国際社会に飛び立つ日本人学生にとっては英語で専門分野を理解する能力が不可欠です。このようなグローバル化時代に対応した大学教育の必要性から本プログラムを実施します。

#### ③ 内容

本学は、食料、環境、健康、資源エネルギーという人類の課題に対して、農学および関連領域から貢献する人材の育成を目指しています。3キャンパス5学部18学科体制の下で専門的な教育研究を実施し多大な成果をあげてきましたが、これらの課題は相互に関連するもので、学際的アプローチも重要です。たとえば食料問題は食料の生産・分配・消費に関する諸問題の総称ですが、食料生産は農業や食品加工業によって遂行され、自然環境、農業技術、食品加工技術などと深く関わってきます。分配は市場経済メカニズムだけでなく保蔵技術の改良によって流通範囲が拡大しつつあります。消費には所得水準のみならず地域固有の食文化が反映されます。

近年の人口増加に見合う食料の増産は現代農学の顕著な成果でしたが、同時に環境負荷の増大や食の安全性の危惧が表面化してきました。今日、環境保全や安全食料の確保の必要性が世界的規模で認識されています。そこで、農業、食料、環境について、広義の農学的視点から基礎知識の修得を目指す全学共通プログラムを開講します。

まさに、食料と環境についての基礎知識を総合的に習得することは、21世紀の人類繁栄に貢献することにつながります。修得者の国際貢献を推進するため、世界共通語である英語を使用言語として実施します。国際的な活動を志向する日本人学生の英語力と専門的知識の向上を図るとともに、特に欧米などからの留学生や海外姉妹校からの交換留学生にとっては、日本やアジアの食料・農業・農村・環境・文化を概観できる機会となるよう講義・見学などの内容に配慮します。

#### ④ 開講科目

後掲の科目一覧表のとおり

⑤ 本プログラムの特徴

i) すべて英語による授業

本プログラムは、本学の専門教育をすべて英語によって実施するものです。単に語学教育のプログラムではないので注意して下さい。

ii) すべての学生を対象に開講

本プログラムは5学部全学科を対象としたオープンプログラムで、開講学年はフリーです。

フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面の開催場所は以下の通りです。

「Introduction to Bioindustry」と「Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population」はオホーツクキャンパスで開催する。

「Ecology and Agricultural Production」は、厚木キャンパスで開催する。その他の科目については、世田谷キャンパスで開催する。

iii) BasicからAdvancedまで開講

本プログラム科目は、比較的やさしいレベルの科目からより高度なレベルの科目まで開催されます。自分の英語力にあわせて履修を考えて下さい。

iv) 授業の開講について

各講義科目は、半期で週1時限（1コマ）開講の2単位です。

履修については、次項の科目とあわせて、必ず留意事項を確認してください。

v) 修得単位数について

学則第15条の3に規定するとおり、他学科・他学部聴講により修得した単位との合計修得単位のうち30単位までを選択科目として卒業要件単位に加えることができます。

vi) 試験について

通常の授業時間に実施します。

vii) 視察、演習、実験・実習およびフィールドスタディは実費を徴収します。

⑥ 履修上の注意事項

自分の英語能力にあわせて履修を考えましょう。学年を問わずいつでも履修できますので、英語能力アップを計った上で履修が可能です。

**Special Program (Conducted in English): Agriculture, Food and Environmentの科目一覧**

(平成27年度)

科 目 名	配当 学年	配当 学期	単位 数	担 当 教 員
<b>Basic (recommended for 1~2 Year students)</b>				
Environment and Agriculture	1~4	F	2	三原真智人(工学)、藤川智則(工学)、島田沢彦(工学)、鈴木伸治(工学) 渡邊文雄(工学)、小梁川雅(工学)、川名太(工学)、佐々木豊(工学)
Food and Environment in Economic Development	1~4	F	2	板垣啓四郎(開発)、高根務(開発)
Life history and Applications of Landscape Plants ※2	1~4	F	2	高橋新平(造園)、鈴木貢次郎(造園)、水庭千鶴子(造園)
Japanese Agricultural Development	1~4	F	2	鈴木充夫(ビジネス)、新部昭夫(ビジネス)、畑中勝守(ビジネス)、平尾正之(ビジネス) 土田志郎(ビジネス)、木原高治(ビジネス)、渋谷征男(ビジネス)、井形雅代(ビジネス)、 鈴木源太郎(ビジネス)、山田崇裕(ビジネス)、泉田洋一(ビジネス)、大久保研治(ビジネス)
Comparative Developing Agriculture	1~4	L	2	稲泉博己(ビジネス)、下口ニナ、Murari Suvedi
Forest and Forestry ※1	1~4	F	2	佐藤孝吉(森林)、中村幸人(森林)、橘隆一(森林)、上原巖(森林) 江口文陽(森林)、O.B.N.Campbell

科 目 名	配当 学年	配当 学期	単 位 数	担 当 教 員
Farmers and Consumers in Japan	1~4	L	2	杉原たまえ(開発)、岩本純明(開発)
Ecology and Agricultural Production	1~4	L	2	山部能宜(農学)、安藤元一(セラピー)、嶺井毅(セラピー)、森田茂紀(農学)
Comparative Nature Study from Cultural Perspective ※2	1~4	F	2	福島菜穂子(国際)
<b>Intermediate</b> (recommended for 2~3 Year students)				
Introduction to Bioindustry	1~4	F	2	小栗秀(生産)、亀山祐一(生産)、中丸康夫(生産)、寺澤和彦(生産)、白井滋(アクア)渡邊研一(アクア)、小林万里(アクア)、朝隈康司(アクア)、中川純一(食香)丹羽光一(食香)、相根義昌(食香)、中澤洋三(食香)、笹木潤(産経)坂田圭子(産経)、上田智久(産経)
Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population	1~4	L	2	Douglas Braat、中川純一(食香)、野村比加留(産経)、白木彩子(生産)、千葉晋(アクア)、塩本明弘(アクア)
<b>Advanced</b> (recommended for 3~4 Year students)				
Food and Health 1	1~4	F	2	額田恭郎(醸造)、田中越郎(栄養)、山本祐司(化学)、服部一夫(栄養)、内野昌孝(化学)、小林謙一(化学)、樋口恭子(化学)、石川森夫(醸造)、辻井良政(化学)
Food and Health 2	1~4	L	2	上原万里子(健康)、阿久澤さゆり(健康)、富澤元博(栄養)、高橋信之(健康)、岩槻健(健康)、清水誠(栄養)、中江大
Molecular Biology and Biotechnology	1~4	L	2	林隆久(バイオ)、吉川博文(バイオ)、河野友宏(バイオ)、千葉櫻拓(バイオ)、矢嶋俊介(バイオ)、喜田聡(バイオ)、坂田洋一(バイオ)、小川英彦(バイオ)、川崎信治(バイオ)、尾畑やよい(バイオ)、太治輝明(バイオ)、三浦大樹(バイオ)、福島穂高(バイオ)、佐々木康幸(バイオ)、渡辺智(バイオ)、伊藤晋作(バイオ)
Agro-Environmental Engineering ※4	1~4	L	2	渡邊文雄(工学)、三原真智人(工学)、藤川智紀(工学)、島田沢彦(工学)、鈴木伸治(工学)、小梁川雅(工学)、村松良樹(香粧)
Planning and Design of Landscape Architecture ※2	1~4	F	2	荒井歩(造園)、阿部伸太(造園)、栗田和弥(造園)、服部勉(造園)
Vegetable Production Technologies for International Cooperation	1~4	F	2	志和地弘信(開発)、小塩海平(開発)、真田篤史(開発)
Global Food Systems	1~4	F	2	高柳長直(経済)、吉野馨子(経済)、林正徳
Agricultural Trade	1~4	L	2	金田憲和(経済)、林正徳
Ecology and Food Production	1~4	L	2	宮浦理恵(ビジネス)、S.M.F.Culumpang、Murari Suvedi
Comparative Food Production Technologies	1~4	L	2	中西康博(国際)、夏秋啓子(開発)、入江憲治(開発)、足達太郎(開発)、入江満美(開発)、S.M.F.Culumpang、Pachakkil Babil(開発)
Edo Aesthetics Environmental Resiliency ※2	1~4	L	2	福島菜穂子(国際)
<b>Common</b> (recommended for 1~4 Year students)				
Agricultural Scientific English for International Cooperation	1~4	L	2	小塩海平(開発)、志和地弘信(開発)、S.M.F.Culumpang、Pachakkil Babil(開発)、Murari Suvedi
Field Study of Food and Environment ※3 ※5	1~4	F	2	稲泉博己(ビジネス)、志和地弘信(開発)、Catelo、Murari Suvedi
Sustainable Agriculture in Asia ※5	1~4	F	2	稲泉博己(ビジネス)、志和地弘信(開発)、Catelo、Murari Suvedi
Group Approach to Food and Environment ※6	1~4	L	2	志和地弘信(開発)、Murari Suvedi

留意事項

- ① ※1 実習を伴う ② ※2 視察を行う ③ ※3 視察を行う 「Japanese Agricultural Development」を併せて履修すること。
- ④ ※4 前期の「Environmental and Agriculture」を履修していることが望ましい。
- ⑤ ※5 履修希望者は、5月頃に学生ポータル募集案内を確認する。科目実施は、7月に1週間集中実習を行う。  
該当する2科目(※5)を同時に履修すること。希望者は、必ず国際協力センターに申し出ること。履修登録は国際協力センターが行う。
- ⑥ ※6 「世界学生サミット」の座長もしくは発表者のみが履修できる。

フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面の開講場所は以下のとおりです。

「Introduction to Bioindustry」と「Eastern Hokkaido:Identifying Opportunities in a Region of Declining Population」はオホーツクキャンパスで開講する。

「Ecology and Agricultural Production」は、厚木キャンパスで開講する。その他の科目については、世田谷キャンパスで開講する。